

当日句投句作品一覧

行く秋の大宮球場子規の夢	さいたま市	小林京子	好天に変へし神業神の旅	さいたま市	原田彩香
二の鳥居色なき風の湖底かな	さいたま市	宮澤順子	神無月のフイールドノートに蛇の池	埼玉県	鳥山由貴子
あとずさりながら整える晩秋	埼玉県	杉本青三郎	鴻つるは期待を担い秋空へ	埼玉県	篠崎正江
四世代の笑顔の連鎖七五三	さいたま市	青木鶴城	萩の花記憶はらはらははらす	東京都	田中信克
二の鳥居くぐりひときは秋気澄む	埼玉県	渡辺智恵	こぼれ萩こぼれ萩巫女こちら向く	埼玉県	越川ミトミ
武蔵野の名残りの落葉踏んでをり	さいたま市	増田信雄	袴着をあたしもすると袖引かれ	埼玉県	小林水迷
瞬間やどんぐりを踏み空見上げ	埼玉県	鈴木牛後	まだ神が帰ったばかり幣の揺れ	埼玉県	山崎十生
秋日背に負ひカビバラの瞑想す	埼玉県	高梨武州	鳥渡る三三五五という自由	さいたま市	堀之内長一
天高し商都に高きレイボック	さいたま市	日高道を	神の旅新幹線か飛行機か	さいたま市	黒木みのり
柏手の四つ揃ひて七五三	さいたま市	板倉ひろみ	紅葉散る桜門朱をひとしきり	さいたま市	鈴木雄太郎
月のみにかかる雲有り風そそと	さいたま市	沼尻美水	晴れ着の児晴れ着におんぶ千歳飴	茨城県	新井久子
銀漢やもう引き返すことできぬ	埼玉県	稲田眸子	神札所親子三代七五三	茨城県	知久和子
散歩道拾う木の実と自尊心	さいたま市	日向大海	幌開けし双子のバギー小六月	さいたま市	佐藤慶夫
池に浮く紅葉一枚ほどの咎	埼玉県	田中朋子	子別れの鳥鳴くなり行幸碑	さいたま市	小山富美
眼が合ひて頷きかへす芒原	埼玉県	中野博夫	七五三禰宜にはかのカメラマン	さいたま市	岡田寿恵
行く秋の影呼び戻す蛇の池	埼玉県	渡邊樹音	秋惜しむ拝殿奥の八雲紋	さいたま市	竹田正明
匂ひ立つ雨後の神樹や秋澄めり	さいたま市	島貫恵	児の進む歩幅に合はせ七五三	埼玉県	青柏
ひたすらに末枯れの色尽くしたる	埼玉県	井越芳子	秋の日や杖の歩弾む十八丁	さいたま市	高山八草
須佐之男命の八つの甕や鳥渡る	埼玉県	辻村麻乃	冬浅し亀並びある神の池	さいたま市	天野清志
菊の香の社すみずみまで明るし	さいたま市	笠原小百合	蛇の水や氷川の杜の秋気澄む	さいたま市	保科綾子
凝りたる松の樹液も冬隣	さいたま市	山下由理子	さざれ石前を行き交ふ七・五・三	埼玉県	松田明子
秋晴の大きな鳥居あふざたり	埼玉県	宮崎淳	秋惜む延々と参道神の町	さいたま市	田中五十一
黄といふ色のやすけし菊花展	茨城県	今泉卓也	満足し笑顔で帰る氷川参道	さいたま市	後藤美由紀
晴れ着きる子に笑うかな菊の花	さいたま市	勝絢桜	紅葉を駆ける氷川の童かな	さいたま市	福田義高
秋短か着ずにしまひし服多し	埼玉県	森田奏子	氷川の杜君あり日の桜散る	さいたま市	堀小夜子
初鴨の池に波立つ生の音	埼玉県	千喜良きよ香	護国神社大石碑英霊やどり秋気澄む	さいたま市	榎本和夫
うぶすなの宮に湧く水冬隣	さいたま市	鶴飼克枝	七五三祝片方に沈鑑武蔵の碑	千葉県	藤埜まさ志
色変へぬ松社務所から国訛り	さいたま市	鶴飼広計	時雨やここまで生きた者がいて	さいたま市	谷川準
参道をくねくね進むほどに秋	埼玉県	吉川あかし	直角に折れて秋の陽能舞台	さいたま市	水心子
うすかはの中の日曇れる露の玉	埼玉県	沼尾將之	参道を落ち葉掻きして七五三	さいたま市	工藤正邦
朝影をつかみしままや櫛紅葉	さいたま市	後藤光風	来し方は年輪に在り銀杏散る	さいたま市	平野楽
広前の審査待ちたる菊の花	さいたま市	池澤はるを	晩秋の橋渡りくる頭陀袋	埼玉県	あゆか
のんびりと浮んで亀の日向ぼこ	埼玉県	中川金時	皆ちがふ砂利踏む音や七五三	埼玉県	太田中央
百歳の盆栽村や七五三	さいたま市	新原健	桃割れに石階高きや七五三	さいたま市	岡根谷良臣
花びらを払う筆先菊花展	埼玉県	鈴木砂紅	柄を傾げ口含めたる秋気かな	さいたま市	櫻ゆうこ
晩秋の杜や朝の光が真直	埼玉県	佐怒賀直美	落葉踏む学徒の頃に住みし地に	横浜市	松永朔風
兜太には成れず秋句や氷川宮	さいたま市	林田伸吾	朔日の一之宮より七五三	埼玉県	坂本和加子
仰ぎみる秋の空にシラコバト	埼玉県	貫井雅人	参道の木洩日杖に秋惜しむ	埼玉県	落合美佐子
湖に浮かぶもみじのダンスかな	埼玉県	貫井哲平	毛糸莞る十一月の高島屋	埼玉県	前北かおる
見げた木コゲラが止まる枝の先	埼玉県	貫井順子	秋うらら亀がつるみて神の池	埼玉県	樋口保
秋の星家族七羽は杜の池	さいたま市	綿貫久子	参道の風の道あり竹の春	埼玉県	鈴木規子
参道の風さらさらと楓黄葉	さいたま市	井上幸夫	朱の鳥居晴れ着の子らに小鳥来る	埼玉県	小林弘和
参道の被る暮秋を霽すかな	埼玉県	水谷邦子	初鴨のいういう浮寝日和かな	埼玉県	金子美津子
氷川杜秋色もつともつと欲し	さいたま市	齋藤祐子	秋深し水面に逆さ朱らんかん	東京都	川井正弘

翔ぶものを時折放ち山眠る
鳥居抜け子規を偲びし薄かな
御手洗の古りし柄杓や新松子
参道に巨石ごろごろ秋日和
参道の石の笑窪や蛇過る
参道の紅葉の歎呼アルデージャ
懸崖菊三方据うる神楽殿
冬ぬくし宮も商ふ蔵茶房
ランナーの足音紅葉且つ散りぬ
弓道場射る音のみやこぼれ萩
秋高し花束のごと稚抱き
晩秋の折り満ちたる一ノ宮
少子化といへど賑はう七五三
新松子楼門の朱の濃かりけり
参道を戻り来る人秋深し
落葉~~leaving~~ ~~soon~~の貼り紙や
言の葉を綴るごとくに式部の実
神楽月耳を澄まして社前
氷川の森ねんりんピツク秋高し
聖書巻に氷川の杜に入ひりけり
行く秋や史の参道を抜くる風
句談義の朽ちしベンチの穴に露
美意識を植えつけられた木の葉だな
枯れ忙ぐことはないのよ杜の樹々
日だまりの猫の背中に時とまる
雨の香の参道を来て神送る
参道の鳥居より紅き楓かな
千年の社に集ふ七五三
秋惜しむ百万都市に紛れ込み
風あらば風の調べや小鳥来る
かさこそと氷川の杜の秋深し
厄年の表から消えて小六月
先頭は双子のバギー七五三
行秋の水へ日輪揺らぎをり
参道に色変へぬ松凧と立つ
大宮の色変へぬ松ねんりんよ
参道の散り積む色や時雨あと
右端は落ち葉に取らふ緋毛氈
七五三ぐづる子と座す緋毛氈
参道にこゑちりばめて小鳥来る
ランナーの鳥居にべこり秋澄めり
秋高し未来へ漕ぎ行く三輪車
秋日和社殿の鈴の音まろく
参道の醤油香るや秋深し
淡き日や黄ばみ初めたる公孫樹
祈りへの長き参道深もみじ
まぼろしの椅子の歌碑あり石菫の花

埼玉県 黒澤あき緒
さいたま市 池嶋久春
埼玉県 佐藤舟若
埼玉県 井上琴吹
さいたま市 蓬次郎
埼玉県 神田一美
埼玉県 山口流離
さいたま市 笹岡久絵
埼玉県 江口あをね
さいたま市 關口邦子
埼玉県 須田真弓
埼玉県 野村のり恵
埼玉県 斉藤君江
さいたま市 中川雅司
さいたま市 我ふたり
埼玉県 藤玲人
さいたま市 金井裕子
東京都 太田いずみ
埼玉県 長澤一枝
埼玉県 篠原葦
埼玉県 福島花野
埼玉県 川越のしよび
埼玉県 浅野都
埼玉県 早乙女文子
東京都 蓮見陽一朗
東京都 渡辺光子
埼玉県 戸室和博
さいたま市 石田清秀
埼玉県 高林雅子
埼玉県 小山八寿子
埼玉県 江原正子
さいたま市 石黒宏志
東京都 久
東京都 今井肖子
さいたま市 梅木満寿子
さいたま市 梅木真由美
埼玉県 寺田多笑
埼玉県 森田真帆
埼玉県 石黒志ほ
群馬県 武井禎子
さいたま市 早坂喜熊
埼玉県 新田雄悦
埼玉県 吉井康廣
さいたま市 早坂コモモ
さいたま市 反町修
神奈川県 赤崎冬生
さいたま市 西脇はま子

行く秋の武蔵統べたる一の宮
冬隣お宮参りの嬰兒は
その奥の水の明るさ暮の秋
参道や啄む鳩の散紅葉
境内に菊が彩る花手水
大菊の花弁のカラーゆるやかに
薄紅葉ライトアップをしたるかに
ざざれ石に突き出る小枝秋高し
縦横無尽十一月一日の古櫓
わが影と十一月の石畳
紅葉の参道武者修行の一句
団子屋のきしめんが好き秋うらら
虫取るや絵筆二本の菊主
宮参り秋の黄蝶に導かれ
警どロのこゑの響ける秋の宮
楽殿に葉の舞うてゐる秋日和
やみあがりひとなみにあきたけなわや
玉砂利の音の濁りや秋湿り
冬隣参道淨き一の宮
秋池のヒレナガニシキゴイ見事
顛顛にキラキラシル七五三
子の草履高鳴る木橋七五三
秋気澄む我原点の氷川道
寒椿早熟女子の佇まい
大宮の氷川の大路秋深む
参道は産道たりや秋静か
水底に紅葉揺れます神の旅
氷川社の拍手高き神迎
長旅の神様御帰還紅葉映ゆ
七五三祝玉砂利の音は空へ空へ
正一位稻荷明神木の実落つ
浅き日をただやふ雑木紅葉かな
「絶好調」のタグの落ちける秋曇
御朱印の余白誘う神の留守
大宮の余熱まだあり紅葉狩
大宮の盆栽どころ爽やかに
埼玉県 佐怒賀由美子
さいたま市 おんちゃん。
東京都 田丸千種
埼玉県 菅原善子
埼玉県 村田文雄
東京都 向井麻代
さいたま市 若杉朋哉
埼玉県 鬼山雅子
さいたま市 矢崎直人
埼玉県 村社昌子
さいたま市 万福
さいたま市 鈴木八重子
東京都 足立光子
埼玉県 滝本史代
さいたま市 櫻田千空
さいたま市 吉田孝子
さいたま市 松岡祥子
さいたま市 石川晴
埼玉県 服部敏子
埼玉県 鈴木三枝子
埼玉県 池田晴江
埼玉県 越智涼
さいたま市 富田利子
さいたま市 横田和子
東京都 五十里順三
川崎市 阿川朔子
埼玉県 北上正枝
さいたま市 青山栄峯
埼玉県 森由美子
東京都 島村典子
埼玉県 古橋淑子
東京都 飯島千青
埼玉県 本藤水月
埼玉県 竹下潤子
東京都 岡崎久子
埼玉県 水尾